

大きく目標に達していない

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	主管課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R2内部評価コメント	大きく乖離した原因	後期計画への反映	R7 2025 目標	検証結果が「廃止・一部修正」の場合の具体的な理由
地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する		新規正規雇用者数 →大北地区企業説明会白馬高校からの参加者	観光課	30→8	30→8	30→8	16	13	50→25	・告知チラシの全戸配布、広報無線、白馬高校内で進路指導担当との更なる連携により、参加者数増加を図ります。 ・地方創生推進交付金事業の実施による新規雇用者創出効果にも期待をしています	・高卒就労希望者が少ないこと、企業説明会参加企業と高卒就労希望者とのニーズの乖離が主因と考えます ・地域未来牽引事業者の取り組み支援により、しごと創出に直結する指標への変更が必要と考えます	一部修正	75	・企業説明会への参加が、「しごと創出」に結びつきにくいためKPI指標を変更します ・新たな指標としては、地方創生推進交付金事業に取り組む、地域未来牽引事業者の新規雇用者獲得を期待します
白馬への新しい「ひと」の流れをつくる	外国人の児童・生徒に対応した教育環境の整備	外国人住民登録者数	教育課	177	245	445	468	514	240	平成30年度までは県費の日本語指導員でしたが、令和元年度から村単独で講師を雇用しています。支援員を活用した取り出し指導や補足的な指導、チーム・ティーチングにより、外国籍児童生徒の指導体制を行っています。	村費講師を各校に配置、北小に日本語指導員を配置し、日本語を苦手とする児童にも配慮してきました。インバウンド需要の増加と相まって外国人登録者数の増加が顕著だと考えています。	廃止		教育環境の整備に対する指標として外国人登録者数とはリンクしないため、後期計画では外国人児童生徒数を指標として、引き続き外国人の児童生徒に対し、教育環境の整備を行っていきます。
若い世代の結婚・出産・子育ての「きぼう」をかなえる		年間出生数（累計）	子育て支援課	63	43	46 (89)	46 (135)	41 (176)	350	年間50人の目標には届きませんでしたが、引き続き、子育て環境を整備し、出生数の増加を促進します。	基準年度の63人を基に、年間70人を目標としたが、H28年度以降は50人を下回り、中間修正が必要であった。地域の特徴として、初産年齢、出産年齢が高いことが影響している。子育て支援のみならず、子育て世代が暮らしやすい地域づくりを、展開していく必要があります。	一部修正	220人 (44人×5年)	現状の出生数を維持することを目標とします。
	婚活サポート事業	婚姻数（累計）	総務課	41	61	113	138	134	270	若者交流事業がきっかけとなるよう、出会いの場を創出していくとともに、個別のマッチングについても他の機関とともに検討を進めます。	白馬村総合戦略にて2020年の人口の将来展望を国立社会保障・人口問題研究所で予測していた8,739人より多い9,003人を目標とし、その将来展望を基に婚姻数の目標を定めていたが、実績は2020年3月末時点で8,787人となり、目標に達しなかったことが考えられる。	一部修正	150	今後も人口の減少が考えられるため、目標の下方修正を行います。人口の減少がある中でも、実績の増加もみられるため、引き続き広域連携などを行い、出会いの場の創出を行います。